

令和5年度(令和6年度実施)事務事業評価

事業整理番号 0503 - 09

事務事業名	商店街プレミアム付地域商品券事業	担当組織	文化商工部	生活産業課
-------	------------------	------	-------	-------

事業特性												
事業を構成する予算事業	事業開始年度	3年度	事業終了年度		計画／一般	一般	計画事業No.					—
	単独／補助	国・都補助事業	運営形態	直営	関連するSDGsゴール	8	9	11	17			
	①	商店街プレミアム付地域商品券補助事業経費			②							
	③				④							
	⑤				⑥							

政策体系(令和5年度基本計画)												
地域づくりの方向	魅力と活力にあふれるにぎわいのまち				政策	産業振興による都市活力創出						
施策	地域産業の活力創出				政策番号	7-1-2						
関連する個別計画	豊島区産業振興指針				計画策定年度	平成26年度	計画期間	10年				

1. 事業の概要・指標の達成状況										
(1)実施の対象 (具体的に記載)	区内商店街、商店街利用者									
	(2) 事業の目的・ 期待する効果	商店街振興を図り、地域経済の活性化に寄与する								
		(3)事業概要								
		区内の各商店街が行うプレミアム付地域商品券事業に対し、商品券印刷経費、広告周知費用、業務委託費用等に要する経費を補助する。商品券発行の有無やプレミアム率等は各商店街が独自に検討し実施する。								
(4) 目標の達成状況	5年度の 取組内容 5年度に 実施した 具体的な 業務内容	16事業(22商店街※共催事業あり)で、プレミアム付地域商品券を発行。商品券は完売し、商店街内 取り扱い店舗で使用され活性化につながった。								
		成果指標 事業目標 の 達成度	成果指標	目指す 方向性	単位	4年度 (実績)	5年度 (計画) (実績) (達成率)		6年度 (計画値)	
			① 実施事業数	↗	事業	18	20	16	80.0	18
			② 実施商店街数	↗	商店街	23	23	22	95.7	24
	③									
	指標の説明		①プレミアム付地域商品券実施事業数 ※複数商店街での共催＝1事業 ②実施商店街数 ※R3～R5計画値設定せず							
	達成状況		未達成	未達成または 一部未達成の理由	実施を検討しているも、事務量や経費等の理由により実施を見送る商店街が複数あったこと					
	(5) 取組実績	活動指標 事業の 実施状況	活動指標	目指す 方向性	単位	4年度 (実績)	5年度 (計画) (実績) (達成率)		6年度 (計画値)	
			① 商品券販売額	↗	千円	100,000	110,000	95,639	86.9	110,000
			② 商品券換金額	↗	千円	114,011	126,000	117,715	93.4	128,000
③										
指標の説明		①商品券の販売額 ②使用され換金された金額								
達成状況		未達成	未達成または 一部未達成の理由	各商店街のプレミアム率の設定の結果。設定した計画値には至らなかったが、販売額が下がったのに対し、換金額(＝流通した額)は前年より上昇しているため、発行額に対する効果は上がったとみることも出来る。						

2. 事業費の推移									
単位 〔 金額の項目:千円 人数の項目:人 〕		4年度		5年度			6年度		
		予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減 (R5決算比)	
事業費		A	51,000	43,791	47,580	41,265	86.7%	51,000	9,735
財源内訳	国、都支出金	B		29,250		41,265			-41,265
	使用料・手数料					0			
	地方債・その他					0			
	一般財源	C=A-B	—	14,541	—	0		51,000	51,000
正規職員人数※小数点第1位まで			0.3	名	1.2	名		1.3	名
会計年度人数※小数点第1位まで			0.4	名	0.1	名		0.0	名

3. 総合評価及び令和6年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和5年度成果と課題	【指標の達成状況(a)】 →S、A、B、C、Dの5段階で評価	B	根拠	実施事業数、商品券販売額および換金額の目標値は達成できなかったが、前年度と比し維持は出来ている。		
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。					
①目標に対する成果状況を踏まえた課題						
区内商店街数に比べて実施事業数が少なく、地域によってはプレミアム付地域商品券の利用が困難な区民もいるため、毎年度の結果を踏まえて、補助対象や補助率等、事業および補助内容の検討が必要である。						
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果)						
利用者の商店街(事業)への関心度上昇、事業実施を通して商店街内での一体感・活性化上昇、商店街内非会員へのアピール						
(2)業務(事務)改善にむけての取り組み	【業務(事務)改善に向けての取り組み(b)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	A	根拠	改善に向けて取り組んだが、まだ実施事業数増加に直結出来ていないため。		
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。					
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲)					
	区内商店街数に比べて実施事業数が少なく、地域によってはプレミアム付地域商品券の利用が困難な区民もいるため、毎年度の結果を踏まえて、補助対象や補助率等、事業および補助内容の検討が必要である。					
	②現状の実施状況における所管課の認識					
	事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択した理由	「有」の場合は対応策も記載。		
	直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択した理由	事業内容変更検討のため商品券事業について手法やコスト等を事業者より情報収集している		
	サービスに係るコストは適正か	適正	選択した理由	参加店舗数による補助上限額設定をしている事、及び補助額以上の経済効果(商品券換金額)がある事		
	統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	有	(有の場合)事業名	区内共通商品券事業		
	③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況					
対応、改善を既にを行った	はい	はい	取組内容及び効果	実施へのハードルを下げるため、共催での実施PRや募集チラシ・実施マニュアルの見直し	予算措置	不要
はい・いいえどちらも(はいの場合は更なる対応・改善の予定)						
対応、改善の予定	有	無	対応、改善の予定がない理由			
有	対応、改善の内容	実施商店街へアンケート実施し、次年度の事業内容を引き続き見直し検討予定			予定時期	R6.8～
	予算措置	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由	
(3)必要性/優先度	【区が実施する必要性(c)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	S	根拠	事業主体は商店街等だが、区が支援して事業を推進する必要がある		
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。					
	①区が実施する理由(複数選択可)					
	☐	区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック			法律の要請を受けて行う事業である。	
	☐	民間事業者等に同様のサービスがない。			その他(理由)	
	②区民ニーズ					
	区民ニーズを表す指標	無	有	指標番号(成果)	指標番号(活動)	サービス利用者数
	有・無どちらも					
	区民ニーズに対する認識	指標数値はないが、商店街や区民等からキャッシュレス等も含めた商品券事業について要望の声があり、区民ニーズ、商店街ニーズは高いものと認識している。				

総合評価(d)=a+b+c	ランク1
---------------	------

4. 【前年度事務事業評価対象事業のみ】改善に向けた取組内容について

(前年度事務事業評価表) 4「所管課の認識・R5年度以降の対応」を記載	・R4は都補助金でPayPayを利用しキャッシュレス決済還元事業を実施(実績:経済効果約16億円)。今年度は予算がつかなかったため実施なし。 ・時代の流れとして、キャッシュレス化が今後さらに進んでいくことが見込まれる。そのため、豊島区商店街連合会と今後のキャッシュレスの商品券のあり方について検討を開始した。		
上記の改善に向けて取り組んだ内容を記載(未着手の場合には理由を記載)	・令和4年度の実施状況を踏まえ、補助金内容(参加店舗数ごとの補助上限額の設定見直し等)を変更 ・補助金内容のほか、デジタル商品券やポイント還元に対応できる内容に要綱見直し ・他区や事業者より、デジタルやキャッシュレスも含めた商品券事業について情報収集		
改善に向けた取組内容についての自己評価 (e)	予定通りに進んだ	根拠	改善に取り組んだ内容で、5年度も滞りなく事業を遂行出来たため

5. 令和6年5月末時点の状況

①令和6年度当初の課題・ニーズ	昨年度も引き続き実施したことにより、商店街プレミアム付地域商品券事業への、商店街および利用者からの要望の声が年度当初から寄せられていた。それに対応しなるべく早期の事業開始を目指し、補助金内容の検査(結果としてR5年度同様での実施を決定)、実施事業数および商店街数を増やすためのマニュアル等の見直しを早急に進める必要があった。
②国・都の動き(関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)	なし
③令和6年度の方向性・取組方針(事業展開)	・令和5年度の実施状況を踏まえた事業内容および補助内容の見直し ・キャッシュレスや地域通貨等の他の手法も含め、商店街や商店街連合会の役員と協力し、PTを立ち上げ検討を進めていく予定
④令和6年度の事業進捗状況	上記③の見直しや要綱改正をした上で6月に説明会および各商店街に資料送付を実施。以降、随時届出のあった事業申請に対し交付決定を行い、各商店街にて事業開始。
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	各商店街や区民より、同事業の継続実施および更なる拡大(キャッシュレス等への対応)への要望や問い合わせを受けている。
⑥上記⑤に対する対応	・令和5年度の実施状況を踏まえた事業内容および補助内容の見直し ・商品券の媒体(紙/デジタル)や、プレミアム分の付与方法(販売額以上の購入可能額/購入額の一定割合分のポイント等還元)にも対応可能な要綱の整備 ・キャッシュレスや地域通貨等の他の手法も含め、商店街や商店街連合会の役員と協力し、PTを立ち上げ検討を進めていく予定

-----以降の項目は、評価内容を踏まえて管理職が記載してください-----

今後の事業費予算要望（f）	減額	根拠	既存事業の見直しコア事業に指定されており、予算減額を見据え補助金内容等再検討して実施
今後の事業の方向性（d+e+f） （現状の評価および施策評価を踏まえた評価）	B	※eは該当の事業のみ加味	
上記判断と今後の事業の方向性を踏まえ、令和6年6月以降に向けての対応を記載（改善方法、課題への対応など）			
・既存事業の見直しコア事業に指定されており、今後の予算減額を見据え補助金内容等、来年度以降の事業について再検討する。 ・キャッシュレス化が今後さらに進んでいくことが見込まれるため、デジタル商品券の導入や区内共通商品券との統合も含め、豊島区商店街連合会と今後の商品券のあり方について検討する。			